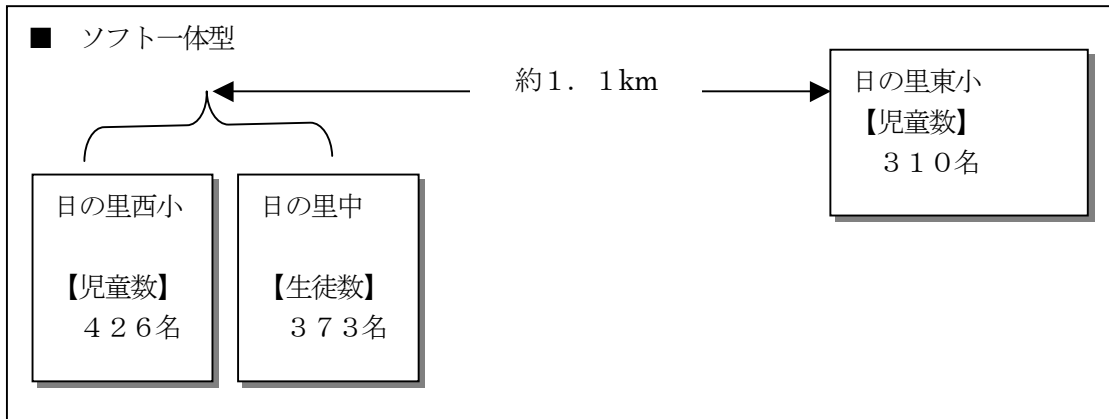


9月15日（金曜日）

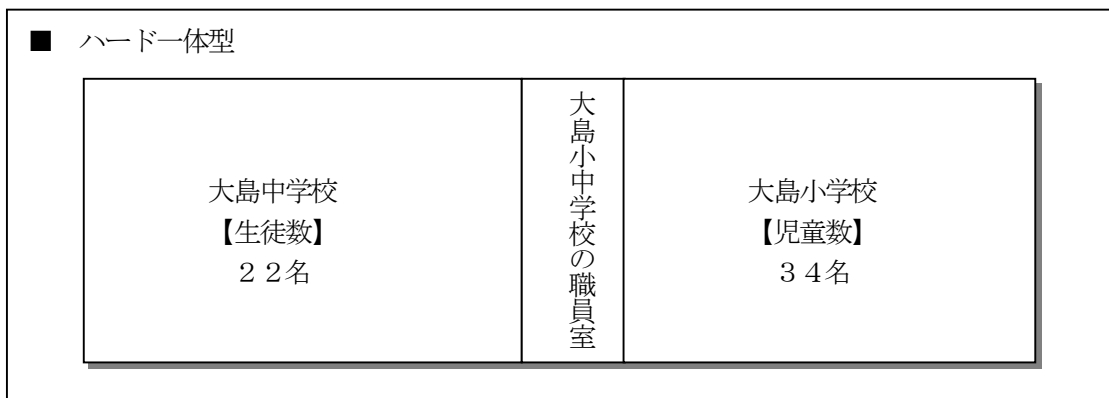
小中一貫教育に関する文部科学省の質問事項

■ 宗像市の小中一貫教育

- ・日の里中学校区（日の里中学校・日の里西小学校・日の里東小学校）



- ・大島中学校区（大島中学校・大島小学校）

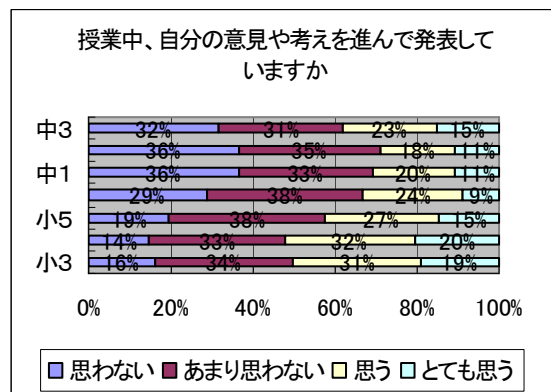
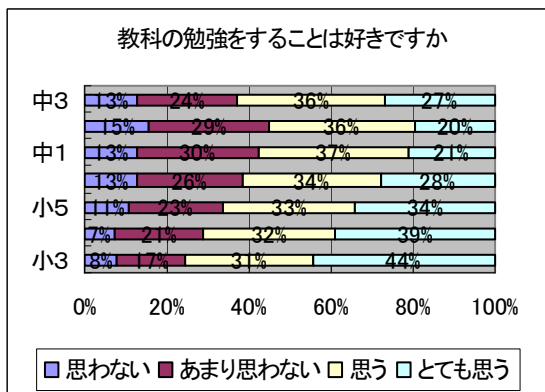


Q1 小中一貫教育を開始したきっかけ（小中一貫教育導入の目的）は何か。

A-1 子どもの学びや育ちへの対応を目的に

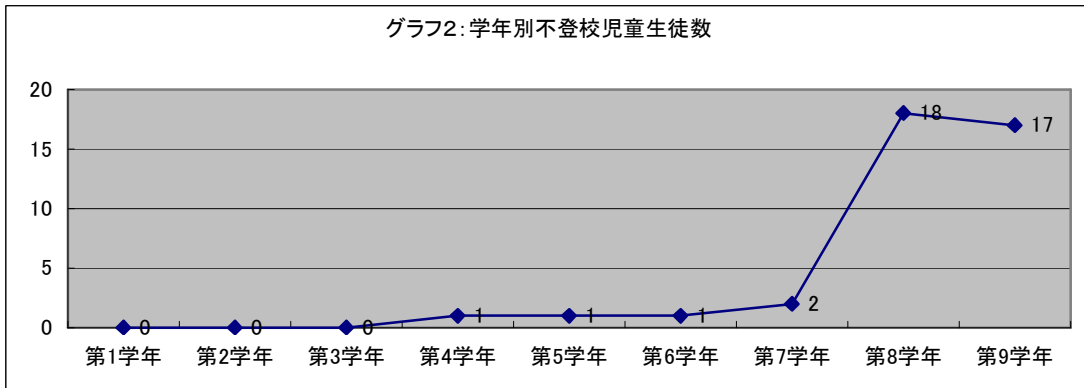
■ 学習意欲の低下への対応

宗像市が平成16年度に実施した「児童生徒の学習意識調査」では「勉強が好きだと思わない子ども」や「授業中に発表しない子ども」が、小学校高学年から増えている。学習に対する望ましい態度を低学年から高学年、中学校へと円滑に接続していくことが求められるため。



■ 不登校児童生徒の問題への対応

宗像市の学年別の不登校児童生徒数は、中学校2年生になって急激に増加する。中学校になって学習や生活の環境が大きく変化し、不適応をおこした子ども達の中2になって学校に行けなくなったことも原因の一つになっているため。



A-2 宗像市の教育課題への対応を目的に

■ 学校力や教師力の向上に関する課題への対応

(小中一貫教育から信頼される学校づくりへ)

本市の教員の平均年齢は、小学校 44.1 歳、中学校 43.9 歳である。また、45 歳以上の教員の占める割合も小学校 55.0%、中学校 48.0%と、他地区に比べると高年齢化が進んでいる。これらの教員の多くは、研修への意欲が低く校長を中心とする学校運営参画意識も低い。このことは、本市義務教育の活性化の妨げになるばかりではなく保護者や市民の不信感にもつながっている。

このような課題は、同一の小・中学校区で学校、保護者、地域が一緒になって子どもの教育にあたるという「小中一貫教育推進システム」を創り上げることによって改善されると考える。また、前期(小学1年～4年)、中期(小学5年～中学1年)、後期(中学2年～3年)のそれぞれの発達段階に応じた学習指導や生徒指導等ができる教師の実践的指導力を向上させることも、課題解決には不可欠である。

そのことで、教員は「地域の子どもを育てるために自分は何を為すべきか。」という明確な課題意識のもと、小・中学校の教員が互いに切磋琢磨しながら教育の専門家としての力量を高めることができると思う。

■ 保護者や地域住民の学校運営への参画に関する課題への対応

(小中一貫教育から地域の教育力の向上へ)

これまで学校は、学校経営の目標や目標達成のための具体的な方策を説明したり、その取組状況を学校評議員や保護者へアンケートで調査したりしてきている。また、それらの評価結果と学校が行う内部の評価結果についても公表してきている。さらには、総合的な学習の時間等の授業に地域の人材を活用したり、地域のひと・こと・ものを学習に取り入れたりしながら学校を地域に開いてきている。

一方、地域も祭りや文化祭等の行事に子どもたちを参加させたり地域の人材を授業等に送り込んだりしている。

しかしながら、保護者や地域が学校とともに子どもの教育に責任を負うというシステムは確立していない。これは、説明や評価の観点の提示が学校だけの一方向であり、学校運営について相互で協議するという関係が成り立っていないからだと思う。

そこで、小中一貫教育を推進する学校の取組状況を評価したり改善策を協議したりする「学校運営評議員委員会」を組織し、保護者や地域住民が積極的に学校運営に参画するシステムをつくる必要があると思う。

Q2 計画を練るにあたり、参考にした事例（他の自治体の取組例）はあるか。

A 計画にあたっては、主にお茶の水女子大学附属幼小中学校の実践を参考にした。また、各学校の計画作成には、呉市立二河中学校、二河小学校、五番町小学校の実践を参考にした。
さらに、熊本県富合町立富合小中学校、呉市立五番町小学校には、実際に現地を訪問して情報を収集した。

Q3 研究開発校の指定や特区の認定を受けて、現行制度の特例を設けなかったのは何故か。（現行制度でも可能と判断したのは何故か）

A 平成18年度の研究開発校の申請は行ったが不採択となった。
その際、新教科として設置を計画した「ふるさと科」、「マイ・ドリーム科」、「英会話活動科」、「小学校選択教科」については、総合的な学習の時間における「ふるさとをテーマとする学習」、「進路をテーマとする学習」、「国際理解をテーマとする英会話活動」「興味・関心をテーマとする学習」に置き換えて実施している。
その他の教科、道徳、特別活動については現行の学習指導要領に沿って教育課程を編成したので問題は無いと判断した。（開発学校の不採択も考慮しながら計画をした。）

Q4 小中一貫教育を開始するにあたって、県の指定を受けているが、何らかの支援措置を受けているか。

A 小中一貫教育の導入に向けて調査研究するモデル校は、以下のような研究指定・委嘱を受け支援措置を受けている。

	研究指定の内容	支援措置
日の里中学校区	○福岡県重点課題研究指定・委嘱事業	・財政的支援（15万）
	○宗像市教育委員会研究指定・委嘱事業	・財政的支援（30万） ・人的支援（非常勤嘱託職員）
大島中学校区	○国立教育政策研究所教育課程研究センター小・中連携実践研究事業	・財政的支援（20万）
	○宗像市教育委員会研究指定・委嘱事業	・財政的支援（30万） ・人的支援（非常勤嘱託職員）

Q5 中学校1校と小学校2校以上という組み合わせは、それぞれ1校ずつの組み合わせに比べ、中学校教員の負担が大きくなるなど困難な点が多いかと思われるが、組み合わせに関するメリット、デメリット等と工夫していることは何か。

- A（日の里中学校：管理職）
- 小中一貫教育を実動させていくのは、教科担任制に基づく協働体制を文化とする中学校からのアプローチが鍵になると考えている。なぜならば、教科担任制の導入が小中一貫教育を推進する上での重要な方策の一つになるからである。
 - 小学校数が増えれば増えるほど中学校への負担は大きくなる。しかし、小中一貫教育を受けた小学生が中学生になったときには、より良い状態が生まれてくることが予測される。楽しみや面白さも大であり、将来への教育投資である。
 - 9年生（中学3年生）の目指す姿から、小学校でやっておきたいこと（学習規律や学び方の育成）に早期から取組める。
 - 小中の教科内容の重なりが明確に分かるので、スリム化や重点化がしやすい。
 - 兼務教員や市の学力向上加配教員の配置があった。
 - 時間割の工夫が常時必要なので中学校の教務主任への負担が大きくなる。
 - 中学校の兼務教員は2つの小学校に行くので3校に勤務することになる。人間関係にタフ

な人材が求められる。

(日の里中学校：兼務教員1)

- 小1、中1の組み合わせがよいと思うが、中1ギャップの解消を考えると、中学校区内の全小学校を対象とする必要がある。
- 全小学校を対象とすることのメリット
 - ・来年度入学する全児童の姿が見える。
 - ・学習スタイル(学び方)の共通化ができ、中学の学習へのスムーズな移行が可能になる。
 例) 理科室での学び方、教材の種類、ノートのとり方、学習規律、学習の進め方、評価の方法 など
- 中学校での学習を見通した授業計画ができる。
 - 例) 理科：3校の顕微鏡を集めれば、個別実験ができる。
中学校の器具等を持ち込めば、発展的な学習も実施できる。
 - 体育：3校のマット等を活用すれば、1マットあたりの少人数化が図れる。
中学校の体育館を使えば、雨天時の運動会の練習がしやすい。
- 3校に増えることのデメリット
 - ・3校になると交流のための調整が大変である。(時間割や行事、研修等)

(日の里中学校：兼務教員2)

- メリット
 - ・2校のよさを比べることができ、より良いものが分かってくる。
 - ・2校の小学生の違いを事前に知ることができる。
 - ・小学校の多くの教師と情報を交換することができる。
- デメリット
 - ・中学、2校の小学校間で時間割を決めていく必要がある。時間割変更がきかない。
 - ・準備の時間、移動の時間を考えて時間割を決めなければならない。
 - ・3者が集まって打合せをすることができないので、中学校がそれぞれの学校へ出向いて打合せをしている。
- 工夫していること
 - ・隣接する小学校とは、中学校の体育館や武道場、運動場などを必要に応じて使用している。
 - ・単元の初めに評価規準を小学校の担任の先生・児童に配布している。
 - ・2校の子どもの実態を知るために個人ノートを記入させている。
 - ・小学校同士の情報交換の橋渡しの立場となっている。

Q6 自治体によっては小中一貫教育の設立と同時にいくつかの学校を統合している例があるが、学校の統合との関係についてどう考えているか。

A 本市においては、次のような学校の状況なので統合については考えていない。

小学校		中学校
A 吉武小学校 (107名)	D 自由ヶ丘南小学校(463名)	A 城山中学校 (759名)
A 赤間小学校 (945名)	E 河東小学校 (535名)	B 中央中学校 (371名)
A 赤間西小学校 (435名)	E 河東西小学校 (602名)	C 日の里中学校 (373名)
B 南郷小学校 (216名)	F 玄海小学校 (153名)	D 自由ヶ丘中学校 (539名)
B 東郷小学校 (478名)	F 地島小学校 (11名)	E 河東中学校 (597名)
C 日の里東小学校 (310名)	F 玄海東小学校 (260名)	F 玄海中学校 (242名)
C 日の里西小学校 (426名)	G 大島小学校 (34名)	G 大島中学校 (22名)
D 自由ヶ丘小学校 (442名)	※A～Gは、同一中学校区	

Q7 将来的に市内全校に拡大することも検討するとのことだが、市内全校に拡大する際にどのような点が問題になると考えているか。

A 平成 19 年度から、市内の各中学校区を単位とする小中一貫教育を導入する方向で、その問題点や調査研究校の結果等に基づいて具体的方策を協議する、「宗像市小中一貫教育推進協議会（仮称）」を組織する計画である。

現時点で想定される問題点は、兼務教員の配置を可能とする指導方法工夫改善教員等の人的配置である。

Q8 学校種間の連携としては、中高一貫教育に関する制度が既にあるが、中高一貫教育ではなく、小中一貫教育を積極的に進めようと考えた理由は何か。

A 義務教育 9 カ年間の公立学校を設置しているのは本市であり、市民や保護者の信頼に応える教育の実現は、最重要課題である。

Q9 教育課程を編成する上で工夫している点は何か。

A 調査研究校の教育課程は、現行の学習指導要領に示された目標や内容を踏まえて編成するようにしているが、今後、9 カ年間を見通した各教科のカリキュラムを作成する計画である。

Q10 小学校からの教科担任制を導入しようとしたきっかけ（目的）は何か。

A (日の里西小学校)

- 教員の専門性を高め、指導力の向上を図るため。
- 児童の興味関心を高め、学習意欲を喚起するため。
- 複数の目で児童に接することで、児童の理解が深まるとともに児童のよさを引き出すことができるようにするため。
- 中学校への移行をスムーズにするため。

(日の里東小学校)

- 次のような構造的、質的な学校改革を推進するために導入した。
 - ・学級の閉鎖性や学級王国の解消を図り、開かれた学級経営を目指すため。
 - ・教師の得意分野を生かし教科指導のさらなる充実をめざし、確かな学力を育てるため。
 - ・多くの教師が関わることで、一人一人の児童のよさや可能性を引き出し伸ばすため。

(大島小中学校)

- 中学校へのステップを緩和するため。
- 学級王国解消のため。
- 学力向上、専門性のある質の高い授業を提供するため。

Q11 小学校からの教科担任制にあたり工夫している点は何か。

A (日の里西小学校)

- 担任の得意な教科で選ぶようにしている。
- 時間割や指導時数の調整、指導内容について学年会で確認するようにしている。
- 最初の学級の指導の反省を次の学級の指導に活かすようにしている。
- 楽しく学べる授業にするため、教材研究や教材づくりに時間をかけている。
- 複数の目で接することで、生徒指導に生かしている。

(日の里東小学校)

- 中期部からの教科担任制の実施に向け、第 1 学年から次のような素地作りを行っている。
 - ・ 1, 2 年生は、発達段階を考慮して学級担任が中心となって、基本的な学び方や学習規律を徹底して指導している。

- ・ 3, 4年生は、1～2の教科について単元や配当時間を決めて、交換授業を行いながら教科担任制の素地をつくっている。
 - 時間割の組み方が調整しやすくするために、授業時数が同程度の「音楽科」「家庭科」「体育科」で取り組んでいる。
 - 教科担任制に取り組みやすい特別教室割（体育館や音楽室）を作成している。
 - 2週間単位で時間割を作成している。
 - 中期部5,6年担任及び兼務教員で実態把握、学習進路、内容の打合せを行っている。
- (大島小中学校)
- 教科担任（小中兼務教員）の役割についての共通理解を図っている。
 - 兼務部会及び兼務授業打合せ会を校務分掌上に明確に位置付けている。
 - 小中の日課表の1校時、3校時、5校時を揃えている。

Q12 小学校と中学校の教員の交流を進める上で工夫してる点は何か。

A (日の里西小学校)

- 3校時と5校時の開始時刻を小中で揃えている。
- 備品や設備を共用している。
- 常に、兼務教員との連絡調整を図っている。
- セレクト学習（総合的な学習の時間：興味関心をテーマとする学習）を小中の教員が協力して行うようにしている。
- 体育科、家庭科の授業はTTで行うため打合せを綿密に行っている。

(日の里東小学校)

- 3校が交流しあう場としての組織を編成している。
 - ・ 3校校務会議（方針決定機関）
 - ・ 3校合同研修会（カリキュラム開発機関）
 - ・ 3校合同教科等研（教科のカリキュラム開発機関）
- 計画的な時間割の調整で兼務教員を活用している。
- セレクト学習における工夫
 - ・ 開設するコースを増やし、指導にあたる中学校教師の数を増やす。
 - ・ 前期部の教員が中学校教員とのTT指導にあたり、中学校教員との交流機会を増やす。

(大島小中学校)

- 小中合同校内研究による交流の場の設定
 - ・ 合同授業研究、反省協議会の開催
 - ・ 小中研究組織の工夫（授業づくり部会・カリキュラム部会・環境づくり部会）
 - 小中合同校務分掌組織運営
 - ・ 4者会議（2校の校長、教頭）、6者会議（2校の校長、教頭、教務主任）等による運営
 - 年間計画の工夫
 - ・ 学校行事の一本化をはかり、小中の忙しい時期を互いに重ねるようにしている。
 - 小中の教師が地域行事へ積極的に参加することによって、協働作業の体験を重ねることによって所属意識が高まるとともにコミュニケーションが深まっている。
- ※山笠、バレーボール大会、ソフトボール大会、敬老会、祭り等

(日の里中学校：管理職)

- 中学校の兼務教員を4月の早い段階（時間割がまだ確定していない段階）から小学校に派遣し、小中一貫教育がスタートしたという意識を互いに持てるようにした。
- 3校校務会議の実施（1ヶ月に2～3回）
- 3校校務会議の議事録を毎回職員に配布し説明している。そうすることで、小中一貫教育の現状や今後の見通し、進捗状況を全員が確認することができる。

- 小中合同教科部会で9年生（中学3年生）の目指す生徒像を中学から提示し、協議したことで小中一貫教育で目指す指針が見えてきた。また、小中で子どもに関わるということや共に研修し教育を推進していくということのイメージを持つことができた。

（日の里中学校：兼務教員1）

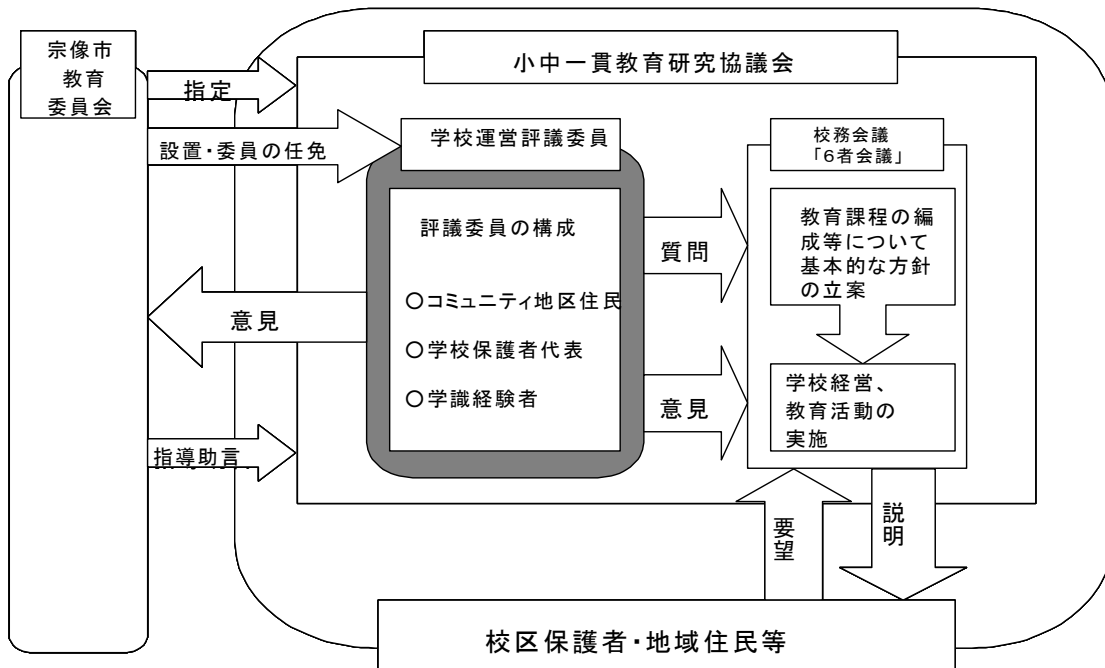
- 最も大切なのは、交流先の学校に居場所があるということ。
 ※下足置き場、事務机、交流職員を温かく迎え入れる職員室の雰囲気、交流職員の用件が優先できる学校運営 など
- 交流のための公用車の整備が望まれる。

（日の里中学校：兼務教員2）

- 気軽に授業参観の機会を増やすため、お互いに行き来する機会をつくる。
 ・セレクト学習、兼務教員等による交流授業 など
- 合同教科等研究会の開催（教科別指導案の作成、検討、実施）

Q13 地域との連携にあたり、小中一貫教育を行っていることで特に配慮している点は何か。

A 特に留意していることは、小中一貫教育の進捗状況の評価を外部にゆだねていることと、その評価結果を積極的に公表することである。



Q14 その他、小中一貫教育を進める上で特に工夫している点は何か。

- A 小中一貫教育の推進に福岡教育大学の知を積極的に活用するようにしている。
- ① 小中一貫教育の外部評価を行う「学校運営評議員」に大学教授等を充てている。
 - ② 小中一貫教育の実現に向けたカリキュラム作成に、福岡教育大学の指導助言を受ける。

Q15 小中一貫教育について、文部科学省に対する要望は何か。

A 小中一貫教育には、「小中の教員が一貫して地域の子どもを育てる教育にあたる。」というねらいがある。このねらいを達成するためには、小中の教員の授業等を通じた交流によって相互の学校文化を理解し、人間関係を深めていくことが肝要である。そのためにも、兼務辞令を発令することができる教員の定数増加を希望します。

平成18年度 福岡県教育委員会重点課題研究推進連絡協議会(2学期)

第8部会(小中一貫教育)実施要項(案)

- 1 目的 重点課題研究指定・委嘱校における研究授業等を通して、小中一貫教育に係る重点課題の実践的研究の在り方について協議を深めるとともに、研究指定・委嘱校の研究推進状況を交換することによって研究の充実を図る。
- 2 日時 平成18年11月14日(火) 13:30~17:00
- 3 会場 授業会場 宗像市立日の里中学校 (宗像市日の里8-8 0940-36-5325)
協議会場 宗像市立日の里西小学校 (宗像市日の里8-20 0940-36-5400)
- 4 持参物 研究の成果及び今後の研究構想(A4 30部) ※ 研究指定・委嘱校のみ
- 5 日程及び内容

日 程	内 容			
13:30	受 付 (会場：宗像市立日の里中学校)			
13:45	開会行事 (会場：宗像市立日の里中学校) ○ 挨拶 宗像市立日の里中学校 校長 田中 雅子 福岡県教育委員会 宗像市教育委員会 ○ 日程説明 ○ 授業説明			
14:15	公開授業 (会場：宗像市立日の里中学校)			
	日の里中学校 第1学年○組 数学科学習指導 「未定」 (視聴覚LL教室)	日の里東小学校 第6学年○組 体育科学習指導 「未定」 (運動場)	日の里東小学校 第6学年○組 理科学習指導 「未定」 (第3理科室)	日の里中学校 第3学年○組 家庭科学習指導 「保育実習」 (妊産婦体験) (多目的室)
	授業者 日の里中学校 教諭 小西千奈津 日の里東小学校 教諭 村上暢崇	授業者 日の里中学校 教諭 竹原 誠	授業者 日の里中学校 教諭 江崎淑治	授業者 日の里中学校 教諭 村井弥生 日の里西小学校 教諭 小出みどり
15:05	休息・移動 (会場：宗像市立日の里西小学校)			
15:30	協議Ⅰ 「研究課題と当日の授業の関わり」 ○ 研究推進状況の説明と授業の自評 宗像市立日の里東小学校 校長 大嶋 正紹 宗像市立日の里中学校 教諭 竹原 誠 ○ 質疑応答			
	協議Ⅱ 「研究推進状況における情報交換」 ○ 猪位金中学校区の研究報告 ○ 質疑応答			
16:20	指導助言 福岡県教育委員会 福岡教育大学 助教授 寺岡 聖豪 先生			
17:00	閉会行事 ○ 挨拶 宗像市教育委員会			